

<平成29年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 朝霞市立朝霞第四中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等）を設け、
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年1月23日 (火)
- 場 所 : 朝霞市立朝霞第四中学校
- ク ラ ス : 2年2組 (35名) 2年5組 (35名)
- オリンピアン : 酒井 友之 先生 (サッカー)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、運動と座学の時間の流れを確認。運動の時間は楽しく体を動かそうと話し、準備体操に移る。
- ・体育館を3周ジョギングした後、コーディネーショントレーニングを実施。続いて2人組になりボールを使ったウォーミングアップを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれて、ボールパスリレーを実施。1列に並び、後ろの人に両手でボールを手渡しながら15m程先のゴールまでボールを運ぶ早さを競う。
- ・手つなぎリレーを実施。班で手をつないで輪になった状態で、15m程先の三角コーンを回って帰ってくる速さを競う。2回目はボール1個をドリブルしながら走ることにした。各回終了後、作戦タイムを設け、速くゴールするための工夫を班で話し合う。

4. まとめ



- ・最後まで一生懸命取り組んだことを称えた。次の座学の時間は酒井先生がオリンピックを通じて感じたことを伝えるので、皆にもオリンピックバリューについて考えてほしい。運動の時間に個人や班で考えたことや、話し合った内容を思い出しながら教室に戻るよう伝え、授業終了。



実 施 内 容

■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



映像を見せながら自己紹介。オリンピックのイメージを問いかけながら、オリンピックの歴史やオリンピックシンボルの意味を説明。酒井先生がオリンピックに出場するまでの経験を伝え、諦めない気持ちの大切さや、チームメイトが掛けてくれた言葉に励まされたこと等を通して感じたオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：運動の時間を振り返って実践できていたオリンピックバリューを考えてみよう。

・発表：失敗した理由を考えて同じ失敗をしない、自分にできることに一生懸命取り組む(エクセレンス)、皆で意見を出し合ったり作戦を考えたりした、失敗した時にフォローし合った、全員で最後までやりきった(フレンドシップ)、挨拶や握手をしっかりする、一緒にゲームしてくれた相手チームに感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・酒井先生は中学生の時にプロになることを目指し、自主トレーニングやサッカーノートをつける等、周りの人以上に努力をした。その結果クラブチームのレギュラーをつかむことができ、U-15の日本代表チームにも入ることができた。努力を続けることで後から結果がついてくると話し、皆も夢や目標ができた時は、目標に向かって一生懸命取り組んでほしいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年1月23日 (火)
- 場 所 : 朝霞市立朝霞第四中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (36名)
- オリンピアン : 廣瀬 栄理子 先生 (バドミントン)
- 授業のながれ : 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・廣瀬先生から自己紹介をした後、オリンピックバリューについて簡単に説明。今日の授業では廣瀬先生の経験を伝えるので、オリンピックについて知ってほしいと授業の目的を確認。
- ・バドミントン部と数名の生徒を相手にデモンストレーション (ラリー、スマッシュ) を実施した後、準備体操へ移る。
- ・ストレッチの後、2チームに分かれ、廣瀬先生と一緒にライン鬼ごっこを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれてボール運びリレーを実施。シャトル、卓球ボール、大きさの異なる風船、バレーボール等の中から班で1つ用具を選択。2人組を作って1本ずつラケットを持ち、ラケットの間に用具を挟み、15m程先に置かれた三角コーンを回って戻ってくる速さを競う。全4回戦実施し、3回戦4回戦は利き手と逆の手でラケットをもつこととした。各回終了後、作戦タイムを設け、用具の選択や作戦を班ごとに話し合う。



4. まとめ



- ・廣瀬先生から、皆が一生懸命取り組んでくれて嬉しかったし、作戦タイムを活かしてゲームの質を高められていたことが素晴らしいと伝える。
- ・次の座学の授業では廣瀬先生の経験について話していきたいと予告し、授業終了。





実施内容

■授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・廣瀬先生の競技人生やオリンピックを目指す過程で感じてきたことを伝えたいと授業の目的を確認。映像を見せながらバドミントン競技について説明。
 ・バドミントンを続けてきた自身の経験から、ベストを尽くす大切さ、チームメイトの言葉が励みになったこと、コートに立てることに感謝の気持ちを感じたこと等、廣瀬先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



・発問：自分の夢や目標を達成するために実践できるオリンピックバリューについて考えてみよう。
 ・発表：苦手を克服するために全力を尽くす、最大限努力する(エクセレンス)、団結する、力を合わせて協力する(フレンドシップ)、友人やお世話になった人に感謝する、礼儀を大切にする(リスペクト)等の意見が挙げられた。



4. まとめ



・廣瀬先生はバドミントンを通して苦しい経験をする事も多かったが、オリンピックに出場できたことは自分の大きな財産になっていると話す。皆も日々の生活で苦しいと思った時には、オリンピックバリューを思い出してほしいと伝える。
 ・東京2020大会はアスリートだけのものではなく、応援することでも参加することができるので、皆で盛り上げていこうと伝え、授業終了。





実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年1月24日 (水)
- 場 所 : 朝霞市立朝霞第四中学校
- ク ラ ス : 2年4組 (36名) 2年1組 (35名)
- オリンピアン : 佐藤 久佳 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・佐藤先生から自己紹介をした後、オリンピックバリューについてエクセレンスは努力すること、フレンドシップは仲間と協力し合うこと、リスペクトは相手を思いやることだと説明し、今日は3つのオリンピックバリューを意識して取り組もうと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳び(90秒×3回)を実施。90秒間で跳んだ回数を競い、引っ掛かっても続きから数えることをルールとした。
・クラス全員跳びに挑戦。



4. まとめ



・運動の時間では上手くいくことも、失敗することもあったと思うが、失敗しても皆で協力し合い、話し合っていたことがとても良かったと伝える。
・失敗を恐れてチャレンジしなければ成功することはないので、困難にぶつかっても仲間と協力しながら乗り越えることの大切さを伝え、授業終了。





実 施 内 容

■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・佐藤先生が競技生活を通して感じたオリンピックバリューについて話すので、自分のことに置き換えながら話を聞いてほしいと授業の目的を確認。
- ・北京大会の映像を見せながら、当時の心境やオリンピックに出場するまでの経験を話し、佐藤先生にとつてのオリンピックバリューについて説明。

3. グループワーク



- ・発問①：運動の時間と座学の時間を通して感じたオリンピックバリューを考えよう。
- ・発問②：今後の生活の中で、どんな自分になりたいか。また、なりたい自分になるために実践したいことをオリンピックバリューに当てはめて考えよう。
- ・発表：一度決めた目標に対して日々努力する、小さい努力を積み重ねる、勝つために逆算して努力する、夢中になれることを見つける(エクセレンス)、チームメイトやクラスメイトを大切にする、協力して行事を成功させる、協力し合う(フレンドシップ)、周りの人への感謝の気持ちを忘れない、支えてくれる人に感謝する(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・考えたことを書き出すことで自分の夢や目標が明確になり、夢に向けた小さな目標が立てやすくなるので、努力するまえにしっかり考える時間をとって取り組んでほしい。頑張っていると必ず失敗することもあるが、挑戦をせずに成功に結び付くことはないので、失敗を恐れずに挑戦してほしいと伝え、授業終了。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 集 合 写 真

2年5組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



■ 証明書贈呈

